

第 69 期

令和 3 年度 事業報告書

令和 3 年 4 月 1 日から
令和 4 年 3 月 31 日まで

福島県郡山市駅前一丁目 8 番 16 号

公益財団法人 湯 浅 報 恩 会

第 69 期（令和 3 年度）事業報告書

1. 事業概況

2019 年 12 月、中国武漢市における肺炎の集団発症に端を発した新型コロナウイルス感染症（以下、COVID-19）は、初確認から丸 2 年半が経とうとしている今もなお、変異を繰り返しながら世界を翻弄し続けている。2021 年 7 月から 8 月にかけて猛威を振るったデルタ株による「第 5 波」は、一時、東京等の都市部における医療を機能不全に陥れ、2022 年の年明けから瞬く間に拡大したオミクロン株の新規感染者数は、ピーク時点で 1 日 10 万人を超える過去最大の拡大となった。本稿執筆現在（2022 年 6 月 1 日）、わが国における陽性者数の累計は 880 万人超となっており、諸外国に比して死亡率は圧倒的に低いものの、累計の死者数も 3 万人を超えた。

引いてはまた押し寄せる COVID-19 拡大の波は、わが国の経済活動にも大きな影響を与え続けている。隔離対象者の増加にともなう労働者不足により物流が停滞し、物価も上昇。これに、20 年ぶりの円安が追い討ちをかけている。また、2022 年 2 月に始まったロシア軍によるウクライナ侵攻とこれに対する経済制裁が原油価格の高騰に拍車をかけ、穀物・鉄鋼等の価格も急騰、国民の購買意欲と企業の投資意欲を抑制している。

政府は経済活動と社会活動の正常化へ向け、ワクチンのブースター接種の加速、軽症者向け経口治療薬の承認等を進めながら訪日客の段階的受け入れ、マスク着用ルールの見直し等行動制限の緩和を進めようとしているが、2022 年 2 月から続く「第 6 波」が高止まりからようやく収束へと向かおうとする一方で、医療機関や福祉施設、学校・教育施設等におけるクラスターはなお発生し続けており、COVID-19 とのせめぎ合いはまだ続くものと思われる。

当法人においては、寿泉堂総合病院の外来やドライブスルー検査で断続的に陽性患者が発生し、中等症までの患者について入院受入を行った。また、寿泉堂総合病院、寿泉堂香久山病院でワクチンの集団接種・職域接種の実施に協力した。寿泉堂総合病院、寿泉堂香久山病院では職員の陽性も数例確認され、感染拡大防止のため一部診療科・病棟における入院受入や使用病室の制限を行ったこと、寿泉堂総合病院では一時的に手術制限を行ったこともあり入院患者数が低調に推移し、寿泉堂香久山病院の入院患者数にも影響した。2019 年度（令和 1 年度）末から始まった受療行動変化にともなう外来患者数の減少は、緊急事態宣言が初めて発出された 2020 年度の上期を底としその後は緩やかに回復しつつあるが、以前の水準には戻っていない。このように、2021 年度（令和 3 年度）も一年を通して COVID-19 の拡大が業績に影を落とし、期末になって若干の患者数回復があったものの、赤字基調の経営を強いられた。しかしながら、前年度に引き続き COVID-19 患者受入のための病床確保並びに感染対策実施に対する国からの補助金を受領したことによって当期経常増減額（経常損益）では黒字を確保し、さらに今年度は、「3. 収支報告」に記載した通り、法人本部で経常外の特異な収益を計上したため、当期一般正味財産増減額（最終損益）は、かつてない 13 億円を超える黒字となった。

世界情勢が混迷を深めるなか、当法人のすべての職員が日々懸命に努力することによりクラスターの発生を回避し、途切れることなく地域医療体制の確保に貢献できたことは、令和3年度の大きな成果であったと総括できる。一方、事業体として将来も存続するために、国からの交付金などに拠らず本来の医業活動によって適正利益を確保するという重大な課題は、またもや次年度に持ち越されることとなった。

2. 部門別事業報告

(1) 法人本部

「郡山駅前一丁目第二地区第一種市街地再開発事業」について、令和3年9月に事業計画の変更認可を受け、11月より旧寿泉堂総合病院の解体工事に着手した。令和4年1月に建築工事に係る ECI (Early Contractor Involvement) 方式のプロポーザルによる施工予定業者選定審査を行い、次いで、令和4年2月には、権利変換計画の変更認可を受けている。

財務面においては、コロナ禍での厳しい収支状況についての法人内で認識を共有し収支改善するための指標として、月次の患者数・診療単価に基づいた速報ベースでの収支把握と情報発信に努めた。また、多岐にわたる COVID-19 関連補助金に係る資金管理と経理上の整理を行った。さらに、再開発事業における権利変換と消費税等の会計処理、将来の資金面への影響について検討し、税務当局等との調整を行った。一方、10年ぶりとなる看護職のユニフォーム改定を行い、働き方改革へ対応する観点から、日勤者と夜勤者を識別できる2種類のデザインを導入した。

人事関係では、職員満足度調査の結果を受け改善に向けた検討を行った。また、組織としての一体感を強化する観点から、部署・チームの目標を設定しその達成度を処遇にも反映する BSC (バランスド・スコアカード) に基づく新人事考課制度の運用を正式に開始した。

エネルギー管理関連では、令和3年秋頃からの燃料費の高騰にロシア軍のウクライナ侵攻と円安がさらなる拍車をかけ、加えて感染防止対策のため換気を徹底したことなどによる空調使用頻度の増加が電気及び都市ガスの使用量を増大させ、使用料金は前年度を大幅に超える結果となった。

(2) 寿泉堂総合病院

令和3年7月1日、第9代寿泉堂総合病院長・金澤正晴に替わり、佐久間潤（前福島県立医科大学脳神経外科教授）が第10代寿泉堂総合病院長に就任した。

令和3年度も、COVID-19 拡大の影響等から厳しい病院運営を強いられたが、地域医療支援病院としての機能と役割を維持しながら COVID-19 患者 71 名（令和2年度・31名）の入院を受け入れた。患者数は入院・外来とも前年度より微増となったものの全体に低調であったが、COVID-19 診療協力に対する補助金のおかげで一般正味財産増減額の黒字を確保することができた。以下、今年度の主な経営指標の結果と取り組みを示す。

【入院患者数・平均在院日数】

延べ入院患者数は 75,826 人で、前年度より 929 人（1.2%）増加した。

平均在院日数は、前年より 0.2 日伸び 10.6 日であった。

【外来患者数・紹介件数（率）】

外来患者総数は 125,919 人（一日平均 426.8 人）で、前年度より 4.9%増加した。

初診紹介患者総数も 6,568 人と、前年度より 158 名増加した。

紹介率は 70.4%で、当院が届け出ている地域医療支援病院の要件 65%をクリアした。

【救急搬送件数・救急入院数】

救急搬送件数は前年より 138 件増加の 2,395 件で、地域医療体制加算を算定するための施設基準 2,000 件をクリアした。救急搬送からの入院患者数も、前年度より 68 名増加した。

【診療単価】

入院診療単価は、前年度比 1.8%マイナスの 62,682 円となった。

外来診療単価は、前年度比 5.4%プラスの 17,509 円となり、年々上昇している。

【医業収支】

医業収入は 7,149 百万円で前年度より 230 百万円増加し、予算値の 7,148 百万円を達成できた。材料費・設備関係費等の医業費用は、前年比 60 百万円（0.8%）増の 7,292 百万円となり、医業収支は 143 百万円の赤字であったが、COVID-19 関連 337 百万円を含めて 419 百万円の補助金収入があったため、一般正味財産増減額は予算値の 15 百万円を上回る 223 百万円の黒字となった。償却前一般正味財産増減額は 544 百万円となり、前年を 302 百万円上回ったが、いずれは廃止される補助金無しで黒字を確保することが課題である。

【患者・職員への対応】

患者満足度調査による当院に対する肯定的評価（非常に満足・満足）の割合は、外来 75.5%（前年度 74.9%）、入院 89.6%（前年度 89.3%）といずれも前年度を上回った。寿泉堂ポストに寄せられた要望・苦情の主な内容は職員の接遇と待ち時間の長さに関するものであり、今後改善を図っていく必要がある。

職員の「働き方改革」では、年休付与日数に関する就業規則・内規の見直しと年休取得義務 5 日の達成に向けた対応を行い、有給休暇 5 日間を取得した職員の割合は 92.1%となった。「医師の働き方改革」に関しては、2 月から検討委員会に診療部からの委員を新たに加え、対応を加速させている。令和 3 年 12 月以降、薬剤師、看護師等の退職者が増加し人員不足が顕著となったため、補充と増員を図っている。

【医療の質】

診療機能等医療の質にあっては、9 月に（公財）日本医療機能評価機構による評価（期中の確認）を受審し、懸案となっていた C 評価（並列による全身麻酔）の解消と、3 つの項目の A 評価へのステップアップにより認証が継続となった。令和 3 年 11 月には、プライバシー確保等入院療養環境の充実を図る目的で、9 階病棟に J ベッド（個室的多床室）を導入した。令和 4 年 1 月には、常勤医師の減員により一時辞退していた脳神経

外科の二次救急当番を一部復活させるとともに「インスリン治療スライディングスケール」の院内統一を図った。また2月より、安全で正確な股関節・膝関節の人工関節置換手術の実施を支援するロボティックアーム「Mako（メイコー）」を導入、稼働させた。歯科医師、歯科衛生士、看護師、言語聴覚療法士等の多職種が協働して取り組んでいる「周術期口腔ケア」も軌道に乗り、大きな成果を挙げている。

【BSCの本格運用と外部認証による経営品質向上への取り組み】

前年度に部署目標達成への取り組みを人事考課と連動させることを目標に試行されたBSCが、令和3年度より本格導入となった。院内各部門・部署の理解度がより深化するとともに、部門・部署相互の業務の「見える化」も進み、順調に運用されている。

また、経営品質の向上を目的として継続的に取り組んできたJQCH認証に引き続き、全業種を対象とする日本経営品質賞（JQA）にチャレンジした。受賞には至らなかったが、11月に実施されたフィードバック会議では、総合病院単体で黒字を確保すること、救急応需率をさらに高めること、職員満足度を底上げすることなど、結果を出すことの重要性を指摘された。今後、本格運用が開始されたBSCも活用しながら、引き続き経営の質の向上に取り組んでいきたい。

【COVID-19への対応】

令和3年4月2日、外来通院中の患者1名と入院中の患者1名のCOVID-19陽性を確認したことに始まり、院内での感染が第1～第7事案まで発生し対応に苦慮したが、都度、緊急対策会議を開催し、接触者の追跡に基づく隔離・管理を行い、クラスターの発生を回避した。COVID-19対応病床は、令和2年度スタート時の4床から、小児病床4床を含む10床に増床した。令和3年1月からは、手術室の稼働を維持する目的で手術室入室者に対するCOVID-19検査の実施を開始した。オミクロン株による感染が拡大した2月からは、救急外来におけるドライブスルー対応が本格的に開始された。COVID-19対応病床には他病棟からも看護師を定期的に配属し、病院一丸となつての対応を進めながら、感染症に対する職員の知識と経験値を上げるよう努めている。

【BCP等危機管理対策】

令和3年2月7日早朝、電子カルテのシステム障害が発生し、程なく復旧したもののその後の調査で「LD（論理ディスク）」障害によるものであることが判明、放置すると致命的な障害につながる可能性もあることを考慮し、3月19日から20日にかけて論理ディスクの再構築作業を実施した。電子カルテシステムについては、サブシステム（部門システム）も含めて令和4年9月に全面的に更新する計画。また、令和4年3月16日、福島県沖を震源とする最大震度6強の地震が発生し、法人各施設への被害は少なかったものの、BCP（事業継続計画）の重要性を再認識する機会と捉え、「災害対応マニュアル」の見直しを行った。

(3) 寿泉堂香久山病院

前年度に続き令和3年度も、COVID-19感染防止対策を継続する中でのスタートとなり、サーモカメラ設置による検温、直接面会の制限、オンライン面会などの実施といっ

た制限の下で診療を行った。職員及び職員家族の感染事例もあったが、感染防止対策を徹底し、院内における感染拡大・クラスター等の発生は食い止めることができています。12月には簡易的に陰圧室が作れる空気感染隔離ユニットを導入し、万が一の事態に備えた感染対策を実施した。郡山保健所等と連携し、後方支援病院として、COVID-19の回復後引き続き入院が必要な患者の受け入れを行った。また、5月からはCOVID-19に対するワクチン接種も積極的に実施し、延べ8,800件の接種を行った。

診療体制においては、8月に医師2名が診療応援に加わり、入院診療体制の増強を図ることができた。また、在宅医療関係では、訪問診療の件数が3ヶ月で30件以上の要件を継続できたことで、地域包括ケア入院管理料2から1へランクアップして8月から算定を開始した。介護医療院では看取り10%以上の要件を満たし、令和4年1月よりII型介護医療院サービス費（I）からI型介護医療院サービス費（I）へランクアップ、診療単価のアップに結び付けた。

患者数は、COVID-19の影響により入院患者数が伸び悩み、1日当たり入院患者数は前年度比-8.1名、予算比では-9.8名。外来患者数も前年度比-2.5名、予算比では-5.9名と、いずれも前年度実績、予算値を下回る結果となった。

収入面では、入院は前年比-3.5%・予算比-3.4%下回り、外来では予算比は-7.7%で下回ったが、訪問診療件数の増加などもあり、前年度比では+9.3%の増収となった。入院と外来を合わせた当院全体の経常収入は前年比-0.7%、予算比-1.5%となったものの、令和4年3月には予算を超える入院患者数となり回復傾向も見られ、次年度は予算達成に向けて患者数の増加を目指したい。

環境活動の面においては、第2回こおりやまSDGsアワードを受賞後に、その取り組みを披露する機会があり、9月にショッピングモールフェスタ、11月に郡山駅内にてこおりやまSDGsアワード受賞団体パネル展が開催され、当院でこれまで活動していた環境負荷低減活動や喫食率・嗜好調査による食品残渣低減について広く知っていただくことができた。10月には、ISOのQMS（品質管理システム）とEMS（環境マネジメントシステム）の認定更新審査が行われた。今後も、ISOを用いた業務改善を推進し、安全・安心の入院生活を提供し、顧客満足度を高めて、さらに地域に貢献できるよう努力していく。5月には郡山市のセーフコミュニティ活動推進事業所となり、地域に寄り添い協働しながら活動し、安全・安心に暮らすことができるまちづくりに貢献してきた。また、令和3年度温暖化防止に取り組む「福島議定書」事業に参加、自ら定めた二酸化炭素削減目標を達成し、令和4年3月「認定証」を授与された。

COVID-19の影響は当面続くものと思われるが、地域の関係機関や介護施設と連携しながら、医療と介護の両面から対応できる病院施設として、迅速な入院受入を行うとともに、入所相談にも親身になって対応することなどにより、地域における当院のポジションを確立しながら、地域医療・福祉に貢献していきたい。

(4) 寿泉堂クリニック (透析センター)

当クリニックの透析監視装置は集中管理方式による透析液供給体制となっているが、本年度は3台を最新の透析装置に更新した。これにより49台全てがオンラインHDF(血液ろ過透析)対応装置となったことで、血液ろ過透析実施率が平均87.3%となり、小分子蛋白質などの除去効率が向上し、水分バランスの良い透析を提供できた。

また、COVID-19対策として発熱患者等に対するPCR検査等を積極的に実施し、隔離透析による感染拡大防止対策を徹底して行った。

延べ患者数は19,430名と前年比で-273名・1.4%減少したが、診療単価が閉塞性動脈硬化用吸着器治療等の実施により+293円・0.9%増加したことで患者減少分を補い、収入総額は前年度より-67万円・0.1%微減の630百万円と、ほぼ前年度並みの収入を確保できた。

(健診センター)

今年度はCOVID-19感染者数が少ない状況下でのスタートとなり、その影響を大きく受けることはなかった。感染拡大防止対策として、首都圏等の陽性者多発地域への往来歴がある受診者については2週間(現在は10日間)の受診制限を行ったことで、延期やキャンセルが多少発生したが、健診を休止することなく継続することができた。

保健衛生活動の推進にかかる特定保健指導を積極的に行い、今年度は135名に実施できた。人間ドック健診者への当日結果説明は100%実施し、うち保健指導は399名の受診者に対して行い、生活習慣病の予防・改善に取り組んだ。

4月から順調に推移したことにより健診者延数は年間17,351名(前年比+6.8%)となり、収入総額は前年比+186百万円・4.9%増加の総額400.9百万円と、過去最高となった。

(クリニック総括)

透析部門は郡山市内の透析ベッド増にともない患者獲得の激戦区となっており、無料送迎実施により患者確保に努めているが、実患者数は年度当初より5名減少と苦戦が続いた。健診部門はCOVID-19拡大の影響をほとんど受けず前半から好調を継続し、受診者数・収入とも過去最高を記録することができた。

寿泉堂クリニック全体の医業収入額は1,037百万円、対前年比+2.1% 20百万円の増収となり、透析装置オーバーホール等修繕関係費の削減に努めた結果、医業費用額が前年度比+1.8百万円に留められたため、償却前一般正味財産増減は329百万円、前年度比+2.1% 6.8百万円の増益となり、医業収入対利益率は31.7%を達成することができた。

(5) いずみ訪問看護ステーション

本年度は事業目標に添い、自部署の特徴でもある中重度者のケアや看取りを中心に学び、業務に取り組んだ。

<財務の視点>

年間総訪問件数は3,433件となった。疾患別では癌末期が多く、本年度は難病の紹介も増加した。ターミナルケア実績は19件で前年比+26%の増となり療養期間の短縮化

が目立つ。また、通所や訪問介護の代替サービスとしての依頼や、短期入所との併用利用が増加したことは、本年の COVID-19 対策による影響と考えられる。

地域密着サービスとして、定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービス事業所、及び「グループホームすぷりんぐ」と契約しているが、訪問看護との連携することが介護員の視点の変化や、緊急時の安心感につながっている。

<顧客の視点>

利用者満足度調査を 11 月に実施し、3 段階の評価で 2（良い）以上が 94%の結果となった。アンケート実施時はその必要性や、利用者個々の状況に合わせた説明の仕方、回収方法などを検討したことから、回収率も 92.5%と高かった。

<業務プロセスの視点>

本年度は各施設とも COVID-19 対策によりオンライン等での連携が中心とり、質の向上を目指し部署内のカンファレンスを徹底した。BCP 作成については令和 4 年の診療報酬改定に向け急ピッチで作成し、今後は研修、訓練などを通し状況に合わせて更新することを予定している。複合災害が繰り返される今、災害対策に対するスタッフの意識は高く、3 月 16 日の福島県沖地震では発災後 30 分以内に全職員、同じく 90 分以内に全利用者の安否確認を行うことが出来た。

<学習と成長の視点>

ほとんどの研修がオンライン化されたこともあり、研修参加数は目標値に達し、個々の意欲の高さを感じられた。本年度導入された BSC は経営を皆で考えるためのコミュニケーションツールとして有用であるが、自己課題を見出す能力には差があるため、個別支援が必要であった。

(6) 寿泉堂香久山居宅介護支援事業所

令和 3 年 4 月に介護報酬改定があり、法令遵守と適正管理に努め特定事業所として質の向上と利用者数の増加に取り組んできた。

<財務の視点>

ケアプラン作成件数は 1,556 件で前年度比 75 件増加した。4 月に人事異動があったため上期は件数を伸ばすことができず、下期で徐々に増加した。新規相談件数は 104 件あり、契約につながった件数は 78 件で前年度比 24 増加した。契約につながらないケースが 26 件あったが、居宅介護支援事業所としての相談機能の役割を果たし、地域包括支援センターや施設、医療機関と連携をした。

昨年度と同様、COVID-19 拡大防止対策継続のために介護認定の自動延長が可能であり、認定調査件数は 0 件だった。

<顧客の視点>

利用者の介護度別では要介護 1 が 42%、要介護 2 は 24%、要介護 3 は 14%、要介護 4 は 14%、要介護 5 は 6%であった。独居や高齢者世帯が多く、介護度が高くなるにつれて人的・物的・経済的環境等が整わないと在宅介護を続けることが難しく、施設入所などにより終了となることも多かった。利用者だけではなくその家族への支援の視点を

持ち、また、介護保険サービスだけではなくインフォーマルサービスも活用し支援した。

毎年実施している利用者満足度調査では「良い」の回答が多く、自由記載では接遇や急変時の対応について感謝の声があり、改めて接遇や事業所内連携、ケース検討を強化した。

<業務プロセスの視点>

コロナ禍の影響により、在宅看取りを希望し、短い支援期間で終了となることもあった。看取り期の支援では特に医療と介護の連携に力を入れ、本人や家族の意向を尊重しながら在宅生活ができるよう心がけた。終了者数は 61 件で、前年度より 6 件増えた。終了の内訳は施設等への入所が 20 件、死亡終了が 41 件だった。今年度はさらに医療と介護の連携を強化し、入院時の情報提供や退院・退所時の情報共有やカンファレンスの参加を積極的に行いながら多職種・他機関との連携に努め、加算算定ができるよう努力した。入院時情報連携加算算定件数は 79 件で前年度比 9 件増加、前年まで算定できなかった退院退所連携加算については 23 件算定した。

自然災害や新型コロナウイルス感染症が発生しても業務継続ができるよう、BCP の作成に取り組んでいる。

<学習と成長の視点>

介護支援専門員専門研修に参加し知識や技術の向上を目指し、事業所内研修では倫理や面接技術、接遇、メンタルヘルス、ハラスメント、防災、ACP などの研修を実施した。

実習生の受け入れは、福島県介護支援専門員実務研修を 3 名、ポラリス保健看護学院より 6 名の実習を受け入れた。

利用者やその家族が住み慣れた地域で安心して在宅生活が継続できるよう、ケアマネジメント力を向上させ支援していきたい。

(7) 郡山南部地域包括支援センター

<財務の視点>

要支援者・事業対象者のケアプラン作成件数は 2,848 件で、前年度に比べて 46 件増加した。新型コロナウイルス感染拡大防止のためサロンが休止となったが、介護保険制度だけでなく、通いの場やボランティア、その他の社会資源の活用を促し支援を行った。

要支援者・事業対象者の初回加算算定は 68 件で、前年度に比べ 3 件減少した。担当地区の高齢者数が前年度に比べて 144 人増加しているが、要支援者・事業対象者の初回加算算定につながる件数は横ばいとなっている。

<顧客の視点>

生活支援体制整備事業として第 2 層協議体を設置する取り組みを行っており、生活支援コーディネーターとの協働を継続している。すでに活動している久留米支部、名倉支部、菜根支部、橘支部には、活動の後方支援をしている。三中支部では設置に向けての協力を行った。

地域活動については COVID-19 感染拡大予防の観点から例年よりは活動が少なくなったが、通いの場を利用している住民や民生委員協議会などに作成したチラシを配布し、

介護予防の普及・啓発を行った。また、医療生協の依頼で健康教室を開催した。

4箇所ある既存の通いの場のフォローアップを行い、新たに2箇所の通いの場の立上げの支援を行った。

介護支援専門員同士の交流やケアマネジメントの資質向上を図ることを目的に、事例検討会に2回参加した。

<業務プロセスの視点>

相談件数は11,830件で前年度より1,585件増加しており、相談内容は介護保険や医療保険に関するものが全体の64%を占めた。相談の中でも認知症に関する相談が多く、医療機関や認知症初期集中支援チームをはじめ、複数の機関と連携が必要になるケースが増えている。医療の中断、金銭管理の問題、セルフネグレクト、虐待など複雑化しているケースが多く、身寄りがないケース、ゴミ屋敷化しているケースも散見された。相談があった時には認知機能が低下しているケースや要介護状態となっているケースが多くなってきており、複数の問題を抱えた家族の支援については、福祉まるごと相談窓口につなぎ連携するケースも増えてきている。

地域ケア会議は、個別会議を4回開催し、圏域会議についてはCOVID-19の影響を考慮し開催できなかった。

個別会議では、金銭問題や一人暮らしで認知症があり身寄りがない方の在宅支援、家族関係が複雑な困難事例の検討を行い、行政を含め保健、医療、福祉など複数の機関の専門職で課題解決に取り組み、地域の介護支援専門員への支援を行った。

<学習と成長の視点>

地域包括支援センター協議会の部会・ブロック会活動や研修会等はZoomでの開催となったが積極的に参加し、意見の交換や情報共有に取り組んだ。認知症セミナーや機能強化研修等に積極的に参加し自己研鑽に努め、在宅三部署合同研修を4回開催し、スキルアップを図った。

今後も、高齢者や介護支援専門員の相談窓口として迅速かつ的確な対応ができるよう、知識や対人援助技術の向上を図っていきたい。

3. 収 支 報 告

今期も、前年度に引き続き法人全体で黒字を確保することを最重点課題に掲げ、各部門でCOVID-19の感染防止対策を講じながら患者の受入に努めた。

「2. 部門別事業報告」に述べた各部門の事業経過の結果、法人全体の令和3年度営業収益総額（内部取引消去前）は10,177百万円となり、前年度に対して224百万円・2.3%増加した。これにCOVID-19関連等の受取補助金（設備投資に対する補助金を含む）455百万円を加えた経常収益は10,731百万円となり、前年度に対し331百万円・3.2%と大きく増加した。これに対する経常費用総額（内部取引消去前）は10,490百万円と、前年度比188百万円・1.8%増加し、その差額の令和3年度の当期経常増減額（経常損益）として241百万円の黒字を確保することができた。

事業報告の中で触れた通り、各部門の患者数・利用者数は前年度に比べて回復傾向も認められたものの COVID-19 以前の水準には及ばず、全体に低調に推移した。それでも、予算値を堅実に見込んだということもあったが、法人の中核である寿泉堂総合病院が医業収益総額において年度予算値を達成できたことは一つの成果であると言える。医業費用総額が医業収益総額を上回ったため純粋な医業損益での黒字は成らなかったが、次年度以降、材料費等の諸経費をさらに厳密に管理することができれば、多額の補助金を受け取らなくても、寿泉堂総合病院単体での黒字化が視野に入ってくる。

今期の特殊事情として、本部の経常外収益には「郡山駅前一丁目第二地区第一種市街地再開発事業」の中で令和4年2月に実施した権利変換にともなう、旧寿泉堂総合病院の土地・建物の譲渡原価（簿価）と権利変換時の評価額との差額、および、土地建物明け渡しにともなう損失補償金を合わせた1,111百万円が含まれている。これによる経常外増減額を合算した当期一般正味財産増減額（最終損益）は1,305百万円の黒字となったが、うち1,111百万円は、当法人が今後、第二地区に建設される複合ビル内に床を取得し、寿泉堂クリニックの機能を移転する費用に充当されるため、内部留保となるものではないことを付記する。

4. 役員会報告

本年度の理事会・評議員会等の開催状況は、次の通りである。

(1) 理事会

① 定時（みなし決議）

みなし開催日 令和3年6月14日

議決事項

- ・ 第1号議案 令和2年度事業報告・決算報告について
- ・ 第2号議案 会計監査人の任期満了に伴う候補者の選任及び監査報酬について
- ・ 第3号議案 理事及び監事の任期満了に伴う候補者の選任について
- ・ 第4号議案 評議員の任期満了に伴う候補者の選任について
- ・ 第5号議案 退任する理事及び評議員の役員退任慰労金について
- ・ 第6号議案 特別管理職の退任及び選任、参与の選任について
- ・ 第7号議案 郡山駅前1丁目第2地区市街地再開発事業の事業計画変更認可申請書の提出について
- ・ 第8号議案 定時評議員会の招集について

報告事項

- ・ 関連施設の現況報告について

② 臨時（みなし決議）

みなし開催日 令和3年6月29日

議決事項

- ・ 代表理事（理事長）選定について
- ・ 業務執行理事（副理事長）選定について

③ 定 時（みなし決議）

みなし開催日 令和4年3月29日

議決事項

- ・ 第1号議案 令和4年度事業計画・収支予算案について
- ・ 第2号議案 令和4年度借入限度額設定について
- ・ 第3号議案 法人の主たる事務所の移転について
- ・ 第4号議案 寄附金取扱規程の整備について

報告事項

- ・ 令和3年度決算見通しについて
- ・ 郡山駅前1丁目第2地区市街地再開発事業の状況報告について

(2) 評 議 員 会

① 定 時（みなし決議）

みなし開催日 令和3年6月29日

議決事項

- ・ 第1号議案 令和2年度事業報告・決算報告について
- ・ 第2号議案 会計監査人の任期満了に伴う選任について
- ・ 第3号議案 理事及び監事の任期満了に伴う選任について
- ・ 第4号議案 評議員の任期満了に伴う選任について
- ・ 第5号議案 退任する評議員の役員退任慰労金について

報告事項

- ・ 特別管理職の選任及び解任、参与の選任報告について
- ・ 郡山駅前1丁目第2地区市街地再開発事業の状況報告について
- ・ 関連施設の現況報告について

(3) 業務監査・会計監査に関する会議

① 令和2年度第68期会計監査人監査報告

開催日 令和3年6月7日

内容 決算報告書に関する監査結果報告

② 令和2年度第68期監事監査

開催日 令和3年6月7日

内容 業務監査及び会計監査

③ 会計監査人と理事者等とのディスカッション

開催日 令和3年9月10日

内容 監査計画についての説明

④ 会計監査人とのディスカッション

開催日 令和4年3月22日

内容 決算に向けての検討事項の把握

(4) その他

常勤理事出席による財団運営会議を毎月第1週に開催した。

5. 診療報告

(1) 令和3年度の患者数等は、次の通りである。

(患者数)

	寿泉堂総合病院		寿泉堂香久山病院		寿泉堂クリニック		合 計	
	名	前年比	名	前年比	名	前年比	名	前年比
外来患者総数	125,919	104.9%	8,873	92.6%	19,705	99.1%	154,497	103.4%
一日平均	426.8	104.9%	30.1	92.6%	63.0	99.2%	519.9	103.4%
新患者数	12,143	108.3%	393	137.4%	191	117.9%	12,727	109.1%
入院患者総数	75,826	101.2%	57,993	94.9%			133,819	98.4%
一日平均	207.7	101.2%	158.9	94.9%			366.6	98.4%
新入院患者数	6,554	99.9%	538	94.7%			7,092	99.5%
退院患者数	6,561	99.9%	522	90.6%			7,083	99.1%
病 床 数	305	100.0%	199	100.0%			504	100.0%

(寿泉堂香久山病院介護医療院) 令和1年10月1日開設

	令和3年度	令和2年度	増減	前年比
入所者総数	15,048名	14,924名	124名	100.8%
一日平均	41.2名	40.9名	0.3名	100.7%
新入所者数	22名	25名	△3名	88.0%
退所者数	20名	24名	△4名	83.3%
療養床数	51床	51床	0床	100.0%

(救急患者数及び救急車による受入件数)

寿泉堂総合病院

	令和3年度	令和2年度	増減	前年比
入院	1,299名	1,260名	39名	103.1%
外来	4,587名	4,367名	220名	105.0%
救急車搬送件数	2,395件	2,257件	138件	106.1%

(人間ドック及び各種健診受診者数)

寿泉堂クリニック

健診内容	令和3年度	令和2年度	前年比
日本病院会指定による二日人間ドック	59名	52名	113.5%
日本病院会指定による一日人間ドック	3,508名	3,558名	98.6%
全国健康保険協会による生活習慣病予防健診	3,646名	3,236名	112.7%
一般事業所健診	7,895名	7,554名	104.5%
郡山市住民健診	2,027名	1,600名	126.7%
個人健診	216名	241名	89.6%

計	17,351名	16,241名	106.8%
---	---------	---------	--------

特定保健指導	135名	136名	99.3%
保健栄養指導	457名	457名	100.0%

(いづみ訪問看護ステーション)

	令和3年度	令和2年度	前年比
利用者延人数	565名	595名	95.0%
訪問延件数	3,433回	3,546回	96.8%
新規利用者数	50名	38名	131.6%

(寿泉堂香久山居宅介護支援事業所)

	令和3年度	令和2年度	前年比
ケアプラン作成件数	1,556件	1,481件	105.1%
認定調査件数	0件	3件	—

(郡山南部指定介護予防支援事業所)

	令和3年度	令和2年度	前年比
介護予防プラン作成件数	2,848件	2,802件	101.6%

(2) 本年度導入した主な医療機器及びその他の機器は、次の通りである。

(寿泉堂総合病院)

手術支援ロボット Mako	手術ナビゲーションシステム
多項目自動血球分析装置	超広角眼底カメラ
自動洗浄乾燥装置	超音波画像診断装置 4台
無影灯	レンズマッピングシステム
簡易陰圧装置 6台	個人用透析装置 2台
医用テレメータ 2台	汚物洗浄消毒装置 3台
分娩監視装置	保育器
検診台 2台	眼筋機能測定器
自動再来受付機 3台	公用車

(寿泉堂香久山病院)

簡易陰圧装置	栄養管理システム
歯科電子カルテシステム	看護職員勤務予定表作成システム
アンチウィルスサーバー	業務用冷凍庫

(寿泉堂クリニック)

透析用監視装置 3台	上部消化管汎用ビデオスコープ
大腸ビデオスコープ	胸部撮影用 CR システム

6. 公益事業報告

(1) 救急医療活動

- ① 救急医療に対し、郡山地区救急病院協議会、郡山地区第二次病院協議会の運営に協力した。
- ② 救急告示病院として、全日救急患者受け入れに対応した。さらに、郡山地区第二次病院群輪番制により毎週木曜日・金曜日と第2日曜日・第4日曜日を担当し、積極的に地域医療に協力した。担当日における時間外の取扱患者数は、次の通りである。

	令和3年度	令和2年度	増減	前年比
入院（担当日）	926名	875名	51名	105.8%
入院（年度内総人数）	1,299名	1,260名	39名	103.1%
外来（担当日）	4,154名	3,902名	252名	106.5%
外来（年度内総人数）	4,587名	4,367名	220名	105.0%
救急車搬送件数（担当日）	1,341件	1,246件	95件	107.6%
救急車搬送件数（年度内総件数）	2,395件	2,257件	138件	106.1%

- ③ 郡山市休日・夜間急病センターの二次病院として、毎週木曜日・金曜日と第2日曜日・第4日曜日を担当し、病床の確保等を通じ全面的に協力した。

(2) 育英事業

令和3年度の奨学生は、次の通りである。

福島県立医科大学看護学部	1名
群馬医療福祉大学	1名
東京家政大学健康科学部看護学科	1名
帝京平成大学助産学科・看護学科	1名
仙台青葉学院短期大学看護科	1名
福島県立総合衛生学院助産学科	1名
マロニエ医療福祉専門学校助産学科	2名
太田看護専門学校	3名
白河厚生総合病院附属高等看護学院	2名
福島看護専門学校	4名
郡山看護専門学校	3名

(3) 公衆衛生協力事業等

- ① 開放型病院として、38床の開放型病床を地域の登録医に開放した。
(利用率 45.0%)
- ② 所得に左右されることのない医療を提供するため、生活困窮者等を対象とした医療費減免を実施した。(実施件数 42件)
- ③ 郡山市内小中学校 6校の健康診断、妊婦健診、乳幼児並びに3才児健診を実施した。
- ④ 産業医として市内各事業所の産業安全衛生活動を実施した。

- ・労働者の健康管理等を目的とした産業医活動を実施
(5事業所 従業員総数 1,280名)
 - ・健康相談・健康セミナーを事業所にて開催 (3事業所 年間 28回)
 - ・保健師による健康相談・保健指導を事業所にて開催
(1事業所 年間 12回)
- ⑤ 厚生労働省からの要請による院内感染対策サーベイランス事業に協力した。
- ⑥ エイズ治療拠点病院として、サーベイランス調査、HIV 感染患者の診療に協力した。
- ⑦ 周産期医療協力病院として、福島県周産期医療システムに協力した。
- ⑧ 出産を控えた患者と家族を対象として、毎週土曜日に予定していた「パパママクラス」は、COVID-19の影響により年間を通し中止となった。
- ⑨ 献血事業協力のため、福島県赤十字血液センターでの採血協力のほか採血バスへの医師派遣を毎月 1 回ないし 2 回実施した。
- ⑩ 社会福祉法人いずみ福祉会への診療協力を実施した。
- ⑪ 郡山市の委託により地域包括支援センターを運営した。

(郡山南部地域包括支援センター運営実績)

	令和 3 年度	令和 2 年度	前年比
相談業務	11,830 件	10,245 名	115.5%
おたっしや長寿アンケート未回収者の実態把握	347 件	345 件	100.6%
地域ケア会議	4 回	4 回	100.0%
生活支援体制整備事業	16 回	7 回	228.6%
介護予防教室	13 回	3 回	433.3%
認知症サポーター養成講座	— 回	3 回	—
ケアマネ交流会	— 回	1 回	—

- ⑫ 地域住民を対象とする健康教室等を Web 開催した。

令和 3 年 7 月	寿泉堂健康教室 「災害時の食事について」
10 月	寿泉堂健康教室 「実はすごいラジオ体操」
令和 4 年 2 月	寿泉堂健康教室 「脳卒中の初期症状と予防法」

- ⑬ 地域医療支援病院としての、地域の医師、医療機関を対象とする医学講座並びに症例懇話会については、COVID-19の影響により開催中止となった。
- ⑭ 地域医療支援病院として、地域医療従事者に向けた研修会を Web にて開催した。
(寿泉堂総合病院)

令和 3 年 4 月 21 日	公認心理師研修会 「ストレスとの上手なつきあい方～環境変化に強くなる～」	16 施設参加
5 月 26 日	臨床検査科研修会 「新型コロナウイルスについて～よく聞く PCR って？」	22 施設参加

6月16日	リハビリテーション科研修会 「基礎疾患のある方が安全で効果的な運動を行うために」	15 施設参加
7月7日	救急蘇生講習会 「救急蘇生とAEDの使い方」	29 施設参加
8月4日	薬剤科研修会 「骨粗鬆症治療薬について」	16 施設参加
8月25日	脳卒中リハビリテーション認定看護師研修会 「脳卒中で起こる多彩な症状について～症状は動かない、話しにくいだけじゃない～」	1 施設参加
9月27日	がん化学療法看護認定看護師研修会 「がん薬物療法の基本的知識について」	7 施設参加
10月26日	認知症認定看護師研修会 「せん妄ケアについて」	10 施設参加
11月30日	皮膚・排泄ケア認定看護研修会 「IADについて（オムツの当て方）」	5 施設参加
12月15日	放射線科研修会 「MRI検査のきほん～原理・検査・画像まで～」	16 施設参加
令和4年 2月16日	栄養管理科研修会 「災害時の食事面での備えについて」	12 施設参加
3月12日	診療部（歯科医師）研修会 「口唇裂・口蓋裂疾患に対するチームケア ～口唇裂・口蓋裂外来における一貫治療～」	7 施設参加

⑮ 講師派遣を除き地域の健康増進、各種行事等へのスタッフ派遣については、COVID-19の影響により中止となった。

令和3年 4月26日	施設内感染対策研修会 講師 「感染対策の基本と施設内感染対策について」 郡山保健所	感染管理認定看護師 1名
7月	福島県主任介護支援専門員更新研修会（Web） 講師（～8月）	主任ケアマネ 1名
7月3日	福島医療生協介護事業部研修会 講師	訪問看護師 1名
9月	福島県介護支援専門員専門研修Ⅰ（Web） 講師 （～10月）	主任ケアマネ 1名
9月15日	認定調査員研修会（Web） 講師 「新型コロナウイルス感染症対策について」	感染管理認定看護師 1名
9月21日	グループホームすぷりんぐ職員研修会 講師	訪問看護師 1名
11月	福島県介護支援専門員専門研修Ⅱ（Web） 講師 （～12月）	主任ケアマネ 1名
11月9日	福島県介護支援専門員再研修・更新研修会 講師 （12月6日）	主任ケアマネ 1名
11月30日	福島県主任介護支援専門員研修会 講師 （12月1日）	主任ケアマネ 1名

令和4年 1月 12日	福島県介護支援専門員実務研修 講師	主任ケアマネ 1名
2月 24日	福島県介護予防従事者研修 講師	主任ケアマネ 1名
3月 12日	福島県訪問看護連絡協議会管理者研修会 講師	訪問看護師 1名

- ⑯ ボランティア育成運営ボランティア育成運営委員会により、ボランティア育成講座及び実習を開催し、ボランティアの積極的な受け入れを予定したが、COVID-19の影響により中止となった。

(ボランティア育成運営委員会)

寿泉堂総合病院 12回

寿泉堂香久山病院 1回

- ⑰ 地域のコミュニティスペースとして、寿泉堂総合病院の会議室を開放しているが、COVID-19の影響により利用実績がなかった。

(4) 研究研修事業

臨床研修医、医学実習生及びその他の実習生を受け入れた。また、関連大学に研究費の助成を実施した。

① 研究助成・事業援助の状況

(ア) 関連大学へ研究助成	27件	57,700,000円
(イ) 関連各種学会へ事業援助	2件	150,000円
(ウ) 地域への事業援助	14件	431,000円

② 臨床研修医の受入状況

(ア) 基幹型臨床研修病院 (寿泉堂総合病院)

マッチングによる2年間の研修(医科) 1年次6名 2年次4名

マッチングによる1年間の研修(歯科) 1名

(イ) 福島県立医科大学の協力型臨床研修病院 (寿泉堂総合病院)

研修医 1年次3名

研修期間 令和3年10月4日～令和3年10月31日

研修科目 産婦人科

研修期間 令和3年11月29日～令和4年1月2日

研修科目 眼科

研修期間 令和4年2月28日～令和4年3月31日

研修科目 整形外科

(ウ) 一般財団法人脳神経疾患研究所附属総合南東北病院の協力型臨床研修病院

(寿泉堂総合病院)

研修医 2年次3名

研修期間 令和3年4月12日～令和3年5月16日

令和3年9月27日～令和3年10月24日

令和3年12月20日～令和4年1月23日

研修科目 産婦人科

③ 看護学生等の受入状況

	学校名	人数
看護学生	福島県立医科大学看護学部	58名
	福島県立総合衛生学院	7名
	郡山看護専門学校	69名
	医療創生大学看護学部	32名
	ポラリス保健看護学院	7名
	国際医療看護福祉大学校	2名
薬学生	奥羽大学	6名
リハビリテーション科学生	東北福祉大学	2名
	仙台青葉学院短期大学	1名
	群馬パース大学	1名
臨床工学士学生	国際医療看護福祉大学校	4名
栄養士学生	郡山女子大学	5名
	郡山女子大学短期大学部	2名
	会津大学短期大学部	2名
社会福祉士学生	東北福祉大学	2名
事務関係学生	国際医療福祉大学	2名
訪問看護管理者研修	福島県看護協会	4名
福島県介護支援専門員実務研修	福島県社会福祉協議会	3名

④ 看護インターンシップ受入状況

実習内容	人数
国際医療福祉大学 看護学部	1名
新潟医療福祉大学 看護学部	1名
東北大学大学院医学系看護学専攻	1名

⑤ 消防署救急医療実習受入状況 COVID-19の影響により中止

⑥ 一般の実習受入状況 COVID-19の影響により中止

⑦ 研究事業

(ア) 学会発表演題数 (診療部) 11題

(イ) 剖検数 2体

(ウ) 治験薬施用承認件数 1件

⑧ 研修事業

(ア) 研究研修のための学会等への派遣 (延人数)

	本部	寿泉堂	香久山	クリニック	いずみ訪問	居宅介護	地域包括
診療部	－	57名	－	2名	－	－	－
看護部	－	22名	49名	1名	6名	－	－
診療支援部	－	11名	6名	－	－	－	－
事務部	2名	6名	4名	－	－	－	－
その他	－	0名	－	－	－	－	－
合計	2名	96名	59名	3名	6名	－	－

(Web 研修)

	本部	寿泉堂	香久山	クリニック	いずみ訪問	居宅介護	地域包括
診療部	－	65名	16名	16名	－	－	－
看護部	－	7名	9名	8名	35名	－	－
診療支援部	－	8名	10名	2名	－	－	－
事務部	3名	34名	－	1名	－	－	－
その他	－	－	－	－	－	－	－
合計	3名	114名	35名	27名	35名	－	－

(イ) 教育研修等

(法人)

令和3年 11月 15日	第29回寿泉堂病院学会 (～28日 Web 配信)	685名参加
11月 27日	新入職員フォローアップ研修会	48名参加

(寿泉堂総合病院)

令和3年 9月 17日	保険診療に関する研修会 「新型コロナウイルス感染症に係る診療報酬上の取り扱い」	262名参加
12月 17日	高齢者医療研修会 「高齢者医療について」	75名参加
令和4年 3月 16日	MRIの安全管理に関する研修会 (～4月30日 Web 配信)	
3月 25日	保険診療に関する研修会 「令和4年度診療報酬改定 主な改定内容と算定要件について」 (～4月8日 Web 配信)	148名参加

(ウ) 海外研修 COVID-19の影響により中止

7. 設備改修工事等報告

令和3年度に実施した主な工事は、次の通りである。

(寿泉堂総合病院)

- ・中央手術室空調機オーバーホール
- ・7階病棟空調機修理及び冷媒配管修繕工事

- ・サーバー室空調機増設工事
- ・10階病棟ブレイクスルー患者受入に伴う病棟改修工事
- ・10階病棟新型コロナ小児患者受入に伴う病棟改修工事
- ・ナースコールシステム更新工事

(寿泉堂香久山病院)

- ・福島県沖地震被災復旧工事
- ・照明器具 LED 化工事

(寿泉堂クリニック)

- ・透析排水放流ポンプ更新工事

8. 労使関係報告

- (1) 令和3年5月6日開催の労使協議会において、令和3年度の給与改定について妥結した。

昇給率 2.02% 昇給額 3,901円 (標準5号の定期昇給)

- (2) 令和3年5月6日開催の労使協議会において、令和3年度の上期賞与の支給率について妥結した。

(基本給+調整手当 4,000円) × (基準賞与 1.5ヶ月+業績賞与 0.9ヶ月)

- (3) 令和3年11月24日開催の労使協議会において、令和3年度下期賞与の支給率について妥結した。

(基本給+調整手当 4,000円) × (基準賞与 2.0ヶ月+業績賞与 0.4ヶ月)

- (4) 令和4年4月1日からの休日・時間外労働(36協定)に関する労使協定を行った。

- (5) 労使双方の代表によって構成する「給与委員会」を定例開催した。

9. 庶務事項報告

- (1) 令和4年3月31日現在の職員数は次の通りである。 (単位:人)

	医師		看護師・准看護師		医療技術員		事務職員		その他		計	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
本部			1				16				17	0
寿泉堂	54	74	230	15	93	2	79	2	40	3	496	96
香久山	7	12	96	2	46		19		66	4	234	18
クリニック	5	10	32	3	10		14	2	3		64	15
いずみ訪問			6								6	0
包括支援			5				1				6	0
居宅介護			3				2				5	0
計	66	96	373	20	149	2	131	4	109	7	828	129

※休職者除く

- (2) 公認会計士による法定監査を受けた。

- (3) 当法人及び寿泉堂松南病院を退職した元職員による寿泉堂病院 OB 会「寿友会」の

運営に協力した。6月に開催を予定していた「寿友会総会」は、COVID-19拡大の状況に鑑み前年度に引き続き中止となった。

- (4) 従業員の健康確保、労働環境確立と労働能力の高揚を目的に、各施設において衛生委員会（昭和55年1月制定）を12回開催した。
- (5) 医療安全の確保を目的とした医療安全管理委員会、医療安全対策委員会及び職員研修会を次の通り開催した。

（医療安全管理委員会、医療安全対策委員会）

寿泉堂総合病院	24回
寿泉堂香久山病院	12回
寿泉堂クリニック	6回

（医療安全管理研修会）

令和3年 4月 2日	令和3年度新採用者医療安全研修会（5日）	43名参加
4月 3日	令和3年度新採用者医療安全研修会 「輸液・シンリンジポンプ」	28名参加
4月 3日	令和3年度新採用者医療安全研修会 「薬剤について」	20名参加
7月 14日	医療安全管理研修会（19日、21日、26日、29日、8月16日、9月1日、3日、16日） 「ファントルくん一導入から5年が経過して」	512名参加
8月 3日	医療安全管理研修会（4日、6日、10日～12日、17日、23日～25日、27日） 寿泉堂香久山病院 「虐待・身体拘束」	251名参加
10月 1日	医療安全管理研修会（5日～6日、8日、12日、14日～15日、18日～19日、20日、26日） 寿泉堂香久山病院 「転倒とくすりの関係」	242名参加
10月 4日	看護補助者研修会（6日） 「医療安全」	38名参加
10月 21日	新採用看護補助者研修会（26日、12月7日、2月21日、3月30日） 「医療安全の基礎知識」	13名参加
令和4年 2月 9日	医療安全管理研修会（Web）（～3月19日） 「医療機関におけるコミュニケーション」	541名参加

- (6) 院内感染の予防と拡大防止を目的とした院内感染対策委員会（平成4年4月制定）を12回開催し、職員研修会を次の通り開催した。

（感染対策研修会）

令和3年 4月 2日	新採用者感染対策室研修会（10日） 「感染について」	43名参加
4月 21日	個人防護具着脱及び鼻咽頭検体採取講習会（26日）	
6月 30日	感染・抗菌薬研修会（7月2日、5日、9日、12日、8月6日、10日、11日） 「新型コロナウイルス感染症について」	521名参加

9月 1日	感染対策研修会（2日～3日、13日～14日、21日、27日～29日、30日） 「口腔ケアは感染対策に有効か」	寿泉堂香久山病院 242名参加
10月 4日	看護補助者研修会（6日、22日、12月27日、2月21日） 「感染対策の基本」	50名参加
10月 27日	感染・抗菌薬研修会（29日、11月1日、5日、8日、24日、12月6日） 「咽頭喉頭炎、扁桃炎の診断と治療について」	540名参加
11月 2日	感染対策研修会（4日～5日、8日～9日、11日、15日～17日、22日、25日） 「抗菌薬適正使用について」	寿泉堂香久山病院 241名参加

- (7) 医療ガス（診療の用に供する酸素、窒素、各種麻酔ガス等）設備の安全管理を図り患者の安全を確保するため、医療ガス安全委員会及び医療ガス設備取扱講習会を次の通り開催した。

（委員会）

寿泉堂香久山病院 令和4年3月31日
寿泉堂クリニック 令和3年11月12日

（取扱講習会）

寿泉堂総合病院 令和4年4月12日
寿泉堂クリニック 令和3年11月12日

- (8) 透析機器の安全管理を図り患者の安全を確保するため、透析機器安全委員会を次の通り開催した。

（委員会）

寿泉堂クリニック 令和3年5月27日

（医療機器取扱研修会）

寿泉堂クリニック 令和3年11月16日
令和3年12月21日

- (9) 防火避難訓練を次の通り実施した。

寿泉堂総合病院 COVID-19の影響により実施せず
寿泉堂香久山病院 令和4年 3月 24日（総合訓練）
寿泉堂クリニック 令和3年 6月 24日（総合訓練）
7月 16日（透析センター 福島県透析連絡会議主催
MCA無線使用災害時情報伝達訓練参加）
9月 1日（透析センター 日本透析医会主催 災害時
情報伝達訓練参加）
9月 1日（透析センター 福島県透析連絡会議主催
MCA無線使用災害時情報伝達訓練参加）

12月 16日 (総合訓練)

令和4年 3月 17日 (透析センター 3月16日福島県沖地震によりMCA無線使用災害時情報伝達実施)
毎月第3木曜日

附属さくら保育園

(10) 令和3年度の当法人並びに職員に対する外部団体からの表彰は、次の通りである。

令和3年 10月 14日	令和3年度健康ふくしま 21 推進県民表彰 優良看護師 荒井志津江 優良栄養士 吉田仁子
10月	令和3年度国民健康保険関係 厚生労働大臣表彰 医師 緑川重夫
10月 31日	令和3年度福島県看護協会 看護団体活動功労者表彰 看護師 木滑志津子
10月 31日	令和3年度福島県看護協会会長表彰 優良看護師 齋藤登志子、柳沼純子 優良看護補助者 加藤素子
11月 11日	令和3年度郡山地区産業安全衛生大会 衛生優良管理者 鈴木万里子、遠藤一江、喜古理道 鈴木真二
11月 11日	令和3年度郡山公衆衛生大会 優良看護師 松岡明美、二瓶さと子 優良助産師 鈴木和美 調理師功労者 薄井美幸

10. 主要記事

- 令和3年 4月 1日 新入職員入社式並びに辞令交付式
- 6月 26日 令和4年3月に卒業する看護学生を対象に「病院説明会」開催
- 7月 1日 新寿泉堂総合病院長就任挨拶式
- 8月 20日 令和3年度永年勤続者表彰 56名
40年勤続表彰 4名 30年勤続表彰 6名
20年勤続表彰 11名 10年勤続表彰 35名
- 9月 7日 ISO 統合更新審査(～9日) (寿泉堂香久山病院)
- 10月 1日 日本経営品質賞現地審査(～2日)
- 11月 2日 郡山市による令和3年度認可外保育所施設立入調査
(附属さくら保育園)
- 12月 7日 キャンドルサービスを各病棟にて実施(8日、10日、16日、20日)
(寿泉堂香久山病院)
- 12月 16日 附属さくら保育園クリスマス会開催(園児のみ)
- 令和4年 3月 23日 附属さくら保育園お別れ会開催(園児のみ)
- 3月 23日 令和3年度医師・歯科医師臨床研修修了式開催(寿泉堂総合病院)
- 3月 25日 定年退職者特別表彰式開催